

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	シャローム三育保育園	種別：	認可保育園
代表者氏名：	園長 村上 渉	定員（利用人数）：	70（83）名
所在地：	246-0021 神奈川県横浜市瀬谷区二ツ橋町469		
TEL：	045-390-3193	ホームページ：	http://shalom-san-iku.jp/
【施設・事業所の概要】			
開設年月日	2006年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 アドベンチスト福祉会		
職員数	常勤職員： 22名	非常勤職員：	10名
専門職員	保育士 24名	栄養士	1名
	看護師 1名	調理員	3名
	用務員 0名	保育補助	1名
施設・設備の概要	居室数： 保育室6室、遊戯室、事務室、調理室、調理事務室、静養室、更衣室、ユニットバス、給湯室、洗濯室	設備等：	園庭遊具、屋外給湯、駐車場（兼用）

③理念・基本方針

法人理念：いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える

保育方針：キリスト教の愛の基に知育（考える力）、徳育（思いやる心）、体育（健康な体）の調和ある発達を目的とした保育を行う

保育目標：気持ちを素直に表現し、意欲的に生活する子ども
思いやりの心を育て、感謝の気持ちを持てる子ども
健康な心と体を持ち、最後まで頑張る子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

シャローム三育保育園は、社会福祉法人アドベンチスト福祉会が運営する、2006年4月に開園した横浜市の認可保育園です。0～5歳児が対象で定員は70名、産休明け保育、一時保育、延長保育、障がい児保育を実施しています。相鉄線三ツ境駅から徒歩で12分ほどの住宅地にあります。園の周囲は豊かな自然や地域との触れ合いを感じることができる環境です。園舎は日当たりが良く、広い園庭があり、子どもたちはアスレチックや滑り台で思いきり体を動かし、のびのびと遊んでいます。夏には滑り台でウォータースライダーをして楽しんでいます。雨の日の散歩では、雨具を着て散歩を楽しみました。保育方針は「キリスト教の愛を基に、知育（考える力）、徳育（思いやる心）、体育（健康な体）の調和ある発達を目的とした保育を行います」を掲げています。自分はどうしたいか、友だちはどうしたいか、みんなでどうしたら良いかということ子どもたちが自分で考えられるように日々保育を実践しています。職員は、遊びを通じて子どもの「～したい」という気持ちを尊重し、子どもの思いに共感し、肯定的に対応して気持ちに寄り添う保育を心がけています。子どもの主体性を大切にしながら、自然に触れ、健康な心と身体と豊かな感性をはぐくみ、五感で感じることを大切にしながら日々の保育を実践しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月30日（契約日）～ 2023年3月17日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（ 2017 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆保育の中長期計画として、「子ども主体の保育」に力を入れています

2017年の保育所保育指針の改定により「子ども主体の保育」について職員で話し合いました。その後コロナ禍になり、今までの行事などの見直しが必要と迫られ、改めて考え直す機会となりました。そこで、「現状の課題」「将来の姿」「達成するための方法」等の3か年計画を作成し、職員は年齢ごとの子どもの育ちに合わせた主体的な保育について勉強を重ねて学んでいます。また、5歳児では園の行事に対して、昨年の動画を見ながら自分たちの行事として捉え、みんなで話し合う機会をつくっています。子どもたちは一日の流れを自分で見通し、自分で主体的に動くなどの変化がありました。みんなで話し合うことも大切にしたい保育に取り組んでいます。

◆単年度計画の内容は詳細に示されており、検証可能な内容となっています

単年度の事業計画は、法人の計画の一部門（保育園・保育）として作成されています。事業計画の冒頭には、当園の保育基本方針、保育目標を示したうえで、定量的な数値目標を「事業数値目標」で明記しています。園の改善すべき点は「業務改善・見直し」に記載されているほか、良い点やさらに強化すべき点は「業務の強化・向上」、新たなニーズの対応については「業務の新たな試み」に記載するなど、取り組むべき内容が明確に記載されており、事後に検証しやすい内容となっています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回は保育所保育指針の改定による保育の見直しの時期と重なりました。今回はその後の保育園の経過を確認していただく機会として捉えていました。この5年間の内、3年間はコロナ禍で行事や活動が制限される中ではありましたが、子どもを中心に、今できる最善を尽くす事をみんなで考えたことにより、子ども主体の保育につなげる事ができました。

一方、感染症対策などによる閉塞感や、コミュニケーション不足による保護者への情報提供が課題であることが確認できました。保育者による不適切保育や虐待などの事件・事故から不安や不信感を抱く保護者もいる中で、一つひとつの対応を丁寧に、保育の内容をしっかりと保護者や地域に伝えるように、今後は保育の見える化を推進していきたいと考えています。

今回の評価結果を受け、この5年間の取り組みによる一定の成果が得られている事を踏まえ、次の中期計画の取り組みで更なる保育の質の向上を目指したいと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり